

鈴木明彦<sup>1</sup>・圓谷昂史<sup>1,2</sup>：北海道礼文島への暖流系巻貝レイシガイの漂着

Akihiko SUZUKI<sup>1</sup> and Takafumi ENYA<sup>1,2</sup> : Warm-water rocky-shore gastropod, *Thais bronni* (Dunker), washed ashore on the coast of Rebun Island, Hokkaido

**はじめに** レイシガイ *Thais bronni* (Dunker) は、西南北海道より南方に分布するアッキガイ科の巻貝である(肥後・後藤 1993; 土屋 2000)。西南北海道の岩礁潮間帯では普通に見られる種(波部・伊藤 1965; 圓谷・鈴木 2012; 鈴木・圓谷 2012)であるが、2007~2009年には中央北海道の望来海岸や厚田海岸で、その漂着が初めて確認された(鈴木 2008, 2010)。今回北部北海道礼文島の海岸において、最北の漂着記録となるレイシガイを発見したので、その概要を報告する。

**採集地点** 礼文島南部の西側の海岸は、ほぼ南北方向に海食崖が連続する典型的な外洋性海岸である。海食崖を構成するのは白亜系(地蔵岩層)から新第三系(元地層)の堆積岩類・火山岩類で、それらは地点によっては急崖をなす(長尾ほか 1963)。今回レイシガイを採集した地蔵岩の浜(図1)は、これらの海食崖の間にみられる礫浜のポケットビーチである。

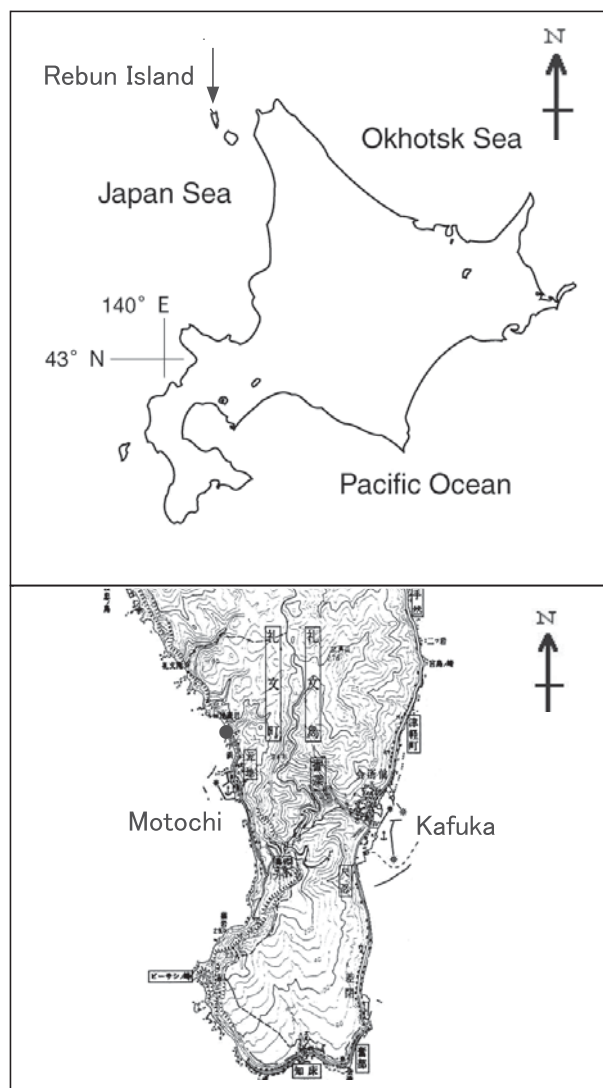


Fig.1 Map showing locality investigated in Rebun Island, Hokkaido.  
● : Stranding site of September, 2012.

**結果** 2012年9月20日、地蔵岩の浜で、波打ち際に大量の流木や貝殻とともに漂着していたレイシガイを採集した。随伴した貝類はユキノカサ、クボガイ、コシダカガンガラなどいずれも岩礁性種であった。レイシガイ(図2)は、ほぼ完全な貝殻である。殻表面には4列の太い螺肋が認められ、螺肋上には丸く大きな結節がある。殻口内部は黄橙色を示す。貝殻の殻高は49.0mmで、殻径は28.3mmで、成貝と判断される。

**考察** 石狩湾周辺で初めてレイシガイが記録されたのは2007年8月(鈴木 2008)であったが、その後も北部日本海では冬季の海面温度が平均値より高い傾向が続いている(気象庁 HP 2012)。2012年9月中旬の礼文島沖の海面水温(SST: Sea Surface Temperature)は約22.0°Cで、

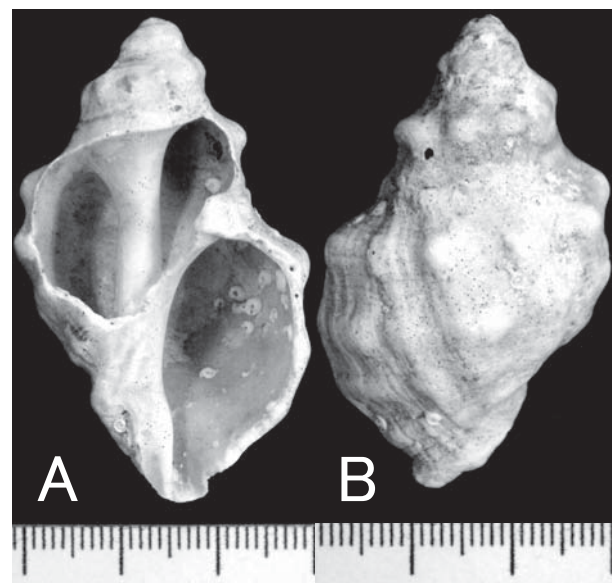


Fig.2 *Thais bronni* collected at Zizoiwa-no-Hama, Rebun Island.  
A. Frontal view, B. Dorsal view.

海面水温偏差 (SST Anomalies) は平均値より約2.5°Cも高温であった (気象庁 HP 2012). また, 礼文島沖での海面水温の上昇は, 近年の浮遊性貝類アオイガイの漂着からも示唆される (船木・佐藤 2009; 鈴木・藤澤 2011). このため, レイシガイは道北の礼文島周辺で, 繁殖・成長することが可能になったと推察される. 礼文島でのレイシガイの出現は, 本種が道北沿岸の岩礁海岸に定着した可能性が高いことが示唆される. 本報告のレイシガイは, 暖流系種が日本海北部の海水温上昇に適応し, その分布範囲をより北方に拡大した一例といえよう.

**謝辞:** 本研究を進めるにあたり, 有益なご助言をいただいた北海道教育大学都郷義寛名誉教授に御礼を申し上げます. なお, 本研究には日本学術振興会研究助成金 (基盤研究 (C) 21500817) 及び平成24年度漂着物学会基金研究助成金を使用した.

**Summary:** A warm-water gastropod, *Thais bronni* (Dunker), stranded along the coast of Rebun Island, Hokkaido is examined. *T. bronni* is also associated with rocky bottom elements such as *Niveotectura pallida*, *Chlorostoma lischkei* and *Omphalius rusticus*. Occurrence of *T. bronni* is probably related to higher sea surface temperature in the northern Japan Sea since 2010. The stranding record of *T. bronni* extends to about 45° 20' N along the Japan Sea side.

#### 引用文献

- 圓谷昂史・鈴木明彦 2012. 北海道積丹半島における新記録暖流系貝類. どんぶらこ (漂着物学会会報), (39): 3-6.  
波部忠重・伊藤 潔 1965. 原色世界貝類図鑑 (北太平洋編). 195pp. 保育社, 大阪.  
船木 梓・佐藤雅彦 2009. アオイガイ (カイダコ科) の礼文島における記録. 利尻研究 (28): 11-12.  
肥後俊一・後藤芳央 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. 693pp. エル貝類出版局, 八尾.  
気象庁 HP 2012. <http://www.jma.go.jp/jma/index.html> (2012年12月参照)  
長尾捨一・秋葉 力・大森 保 1963. 5万分の1地質図幅「礼文島」及び同説明書. 43pp. 北海道開発庁.  
鈴木明彦 2008. 北海道望来海岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイとイボニシの漂着. 漂着物学会誌 6: 23-24.  
鈴木明彦 2010. 北海道厚田沿岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイの漂着. 漂着物学会誌 8: 25-26.  
鈴木明彦・藤澤隆史 2011. 北海道礼文島へのアオイガイの漂着. 漂着物学会誌 9: 25-26.  
鈴木明彦・圓谷昂史 2012. 北海道積丹半島沿岸への暖流系貝類の漂着. 地球科学, 66: 161-162.  
土屋光太郎 2000. アッキガイ科. 奥谷喬司 (編著). 日本近海産貝類図鑑. pp. 365-421. 東海大学出版会, 東京.

(Received Mar. 15, 2013; accepted Apr. 15, 2013)

<sup>1</sup> 〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1 北海道教育大学札幌校地学研究室

<sup>1</sup> Department of Earth Science, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education, 5-3-1 Ainosato, Kita-ku, Sapporo 002-8502, Japan

<sup>2</sup> 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道開拓記念館

<sup>2</sup> Historical Museum of Hokkaido, 53-2 Konopporo, Atsubetsu-cho, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0006, Japan